

(様式3)

自己評価結果票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	施設内の見やすい場所に理念を掲げている。昨年度より、新人教育の一環として、理念についてもテストを行なっている。定期的に常勤職員には理念のテストを行っている。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフミーティングでケア計画を立てる際、理念を意識しながら立てている。パート・新入職への浸透を考える必要がある	様々な研修の中で折に触れ、法人理念・施設理念を出すように心掛けている。今年度下期から、常勤者は目標管理を行う。目標設定の際にも理念を意識して作成するよう指導する。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	パンフレットに掲載している。	ホームページのブログ、季刊誌の中で触れていく。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常の買物や、美容院の利用で店員などには声をかけてもらえるようになっている。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭りには店も出し毎年参加している。ふれあいサロン、子ども会行事などにも参加している。	トライやるウィークの受け入れ、ドッグセラピー、折り紙ボランティア。地域活動に今後も参加していきたい。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>運営推進委員会を通じ、入居相談だけでなく、介護相談にも応じる用意があることは伝えている。地域行事に参加し、認知症の方々が、生き生きと生きている様子を伝えている。</p> <p>リビング活用型デイを開所し、社会資源として活用してもらう。</p>		<p>地域のかなの施設として、相談などの責務を果たし、地域に愛される施設にしたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価結果に基づき、委員会などを通じ、改善を行っている。</p>		<p>今後も、1つずつでも委員会で取り上げ、改善を重ねていきたい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回の運営推進会議を行い、全体の動きや、入居者さまの生活などを報告している。その場で出た意見などは運営に反映させるよう議事録を通じフィードバックさせている。</p>		<p>今後は、運営推進会議での話し合いを元に、アネシス西宮だよりを作成し入居者さま、ご家族さまに配布していくことにより、職員の意識付けしていきたい。</p> <p>家族の代表のみに案内を出していたが、全家族に案内を出し、これの方には来て頂くように考えている。</p>
9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議には市の担当者が毎回参加してくれている。運営についてや今後の方向性など報告し意見を聞いている。実地指導もあり、改善点など市へTelや訪問し意見を仰ぎながら改善策を立てた。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護に関する研修を法人内で年数回行い、公表しスタッフが参加できる機会を作っている。今後は、新人研修だけでなく、事業所内でも研修項目としてあげている。リスクマネジメント委員会内でミニ研修を行っている。</p>		<p>新人研修でも取り上げているが、リスクマネジメント委員会でも定期的に研修計画を立てていく。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>リスクマネジメント委員会内で、虐待防止について話し合う機会を設けている。見てみぬふりは、同罪であることしっかり伝え、相互間で注意できる雰囲気を作っている。</p>		<p>今後も、研修を重ね、虐待防止の起こる背景や、相互チェックすることの大切さを伝えていく。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には、時間をかけ説明を行なっているが、家族も高齢であったり、後から聞くと理解できていないこともある。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>契約書などに、市や県、国保連の相談窓口の案内をしている。市や県にご意見があった際、聞き取りに行き改善できる点は改善に向けて努力している。面会簿に意見欄を設け、意見がある時には書けるようにした。</p>	<p>デイと合同になるが、意見箱を1Fエレベーター横に設置する。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>来所の際に出納帳のチェックをしてもらっている。月に一回家族報告書を作成し、日頃の様子や行事への参加、健康状態の報告を行なっている。</p>	<p>本人の報告のみでなく、事業所の今後や、報告などを季刊誌、お知らせを通じて知らせていく。日頃の取り組みや、生活の一場面を順次ブログにアップさせていく。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>相談連絡記録を作成し、家族とのやり取りが確認できるようになっている。苦情処理の用紙も苦情のみでなく、意見等にも活用できるようにしている。家族来所の際には、管理者または計画作成担当者が出来る限り、直接話す機会を作っている。</p>	<p>家族との関わりが、自分たちの仕事と捕らえていないスタッフもいる。自分たちが聞いたことを相談記録に残すと言う意識に欠けている。記録に残すことの意義を再教育していく必要がある。週居後の記録は相談記録ではなく介護記録2に残すことでスタッフが読みやすく書きやすい環境を作る。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>スタッフミーティングや、ユニットごとのミーティングを設けている。トップダウンではなく、ボトムアップでの改善を心がけている。業務改善委員や、研修委員など、自分達で仕事を作っていくことを意識させることに時間を費やしてきた。スタッフミーティングには管理者は参加せず、その間のフロアフォローをし、一人ひとりの意見を抽出しやすいようにしている。</p>	<p>今後も、各委員会を中心に、自分たちの職場は自分達で作ることを意識付けていきたい。目標管理の中でも、意識付けを行っていく。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>日勤帯、3名でまわっていたが3.5から4名に増やした。看護師をフリーで置いておくことで管理者がいなくても、各フロアで協力体制が取れるようにしている。</p>	<p>入居者の活動時間に合わせて、どのような体制で勤務すれば自分たちの望むケアが出来るのか考えさせていきたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>夜勤の無い非常勤スタッフは、2ユニットともに籍を置いてもらっている。離職を減らすよう、職員教育体制を整えていく。ミスマッチがおきないように、面接時施設の望むスタッフ像や、施設の向かおうとしている方向性を伝え、賛同して入ってきてもらうようにしている。</p>	<p>スタッフの移動があっても馴染みの関係が出来るよう、2ユニット合同での外出や、行事を増やす。</p> <p>短時間の応援や、入居者の訪問などユニット間での人の行き来を増やす。家族報告書、ミーティングの報告書を他ユニット分も目を通せるようにしたので、大まかな状態を把握しやすくなっていくと思います。</p>
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>前年度より、他事業所と合同で、年間計画を立て、大枠の研修をしている。新人教育、2年目、3年目の研修計画を立て、段階別の教育計画を本年度より実施している。</p>	<p>研修が定着してきた中で、研修レポートの様式を変更し、講師への一言も入れていく。講師をした人もステップアップできるようにしていく。プリセプターの教育を始めている。コーチングについての知識、言葉のかけ方一つで相手の意識が変わることを知り、効果的な関わりについて共有し、悩みも共有していく。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市内のGHの連絡会に参加し、意見の交換などを行っている。日頃でも連絡を取り合い、疑問点や悩みなどを打ち明けている。</p>	<p>今後も、連絡会を通じ、相互に連絡を取りやすい環境を作り、連携していきたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>管理者はスタッフの働きやすい環境を整備することで入居者に還元できるよう心がけている。少しの変化も把握する為、マメにラウンドし、声かけをしている。</p> <p>定期的(年に4回)に、面接をし、問題の抽出などを行っている。</p>	<p>スタッフ間での摩擦に心を配り、調整を心がけたい。</p> <p>ストレスに強い個々をきづく為のアドバイスやストレスケアの研修を行っていく。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>スタッフとの面接時に、個々の課題を投げかけるようにしている。進捗状況も聞きだし、アドバイスするようにしている。</p>	<p>各々役割を与え、達成感が感じられるよう工夫していく。やる気を起こさせるフィードバックの方法を探る。目標管理シートを軌道に乗せることで評価内容がちぐはぐになりにくく頑張っている過程も評価される事へ繋がる。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居までに必ずご本人にお会いし、思いや願い、不安を聞く機会を設けている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>日々、出来る限り計画作成担当者のうち1名か管理者がフリーの状況になるよう人員を配置している。相談等の問い合わせ時、ゆっくり話を聞く体制を取れるようにしている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>他施設、市内の他のサービスの状況、介護保険外の資源の変化に敏感になり、情報収集に努めている。</p> <p>自施設だけでなく、他のサービスも含めアドバイスできるようにアンテナを張っている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居者や家族が安心してグループホームへの入居を決定できるように、入居前には必ず見学していただき、グループホームの説明を行っている。状況によっては入居前訪問をし、契約は自宅で行う場合もある。</p>	<p>今後もサービスを納得して利用していただけるよう、工夫をしていく。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>表面に見えている状態の対処だけでなく、お一人お一人の背景に目を向け対応することを心がけている。暮らしの中の一つ一つの作業をともにできる方法を探り、介護を受けるだけの存在にならないための工夫をしている。</p>	<p>今後も、一人ひとりのもっている能力を活かせるよう、アセスメントする力を高めていく。症状の後追いにならないよう、安心できる環境の整備をし、能力を発揮できる環境を整えていく。スタッフの中での意識を何ができないか・ではなく、どうすれば一緒にできるかに切り替えるよう指導している。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいき きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	家族参加の行事を行ったり、家族報告書、来所時の説明を含め、家族の役割を失わないよう支援を行っている。預け切りにならないよう、関係が切れてしまわないよう発信していく。		家族会の発足を予定している。家族の役割、協体制度などを検討していただく。クレーン大会ではなくいい意味で運営に参加していただけるよう下準備のお手伝いをしていく。
29	利用者と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	初回相談時より見えてくる家族間の問題にも目を向け支援を行っている。距離を置くことで再構築できる関係もあるので、来所時などを利用して関係づくりのお手伝いをしている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	預けっぱなしで興味を失ってしまわないように、本人との関係を維持、再構築する支援をしている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	グルーピングや、配置などに工夫し、ユニット間を超えた関係作りを行っている。関係が悪化してしまわないように、間に入り適度にかかわりながら、関係作りの支援を行う。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	在宅復帰した家族など、定期的に連絡をしたり、介護相談などを行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時などに家族や本人の思いを確認するシートを作成している。来所時に家族とのやり取りの中から、希望、要望を聞きだすように心掛けている。本人とのかかわりの中から、言動の裏に秘められた思いを創造する力をつけるようスタッフ教育をしている。</p>	<p>本人の意向をしっかりとアセスメントする能力の強化に力を入れ、くみ取った思いを活かした計画作成となるよう、介護スタッフ、計画作成担当者を中心にカンファレンスを重ね、共通認識を持っていく。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前のアンケートなどでできる限り、発症前、入居前の状態の把握に努めている。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>一人ひとりの観察項目を一目で分かるようにしている。観察項目は気がついた人が、追加できるシステムにしている。観察項目に挙がっていることは、日々の記録にしっかりと残すようにしている。</p>	
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>センター方式を中心として、見やすく使いやすいアセスメントシートを作成していている。各ユニットでのカンファレンスで、計画の変更や継続についての話し合いを行っている。</p>	<p>家族報告書に返信用を付帯させる案があったが、家族から義務のようになる・・・との意見があり取り掛かれていない。何でも意見を受け付けていることは伝えているが、一部の家族以外はお任せになっている現状もある。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>各入居者ごとに担当を決め、見直しが必要なことは、観察項目にあげアセスメントし、計画作成担当者とともに、見直しを行う。担当者以外でも、観察項目は追加でき、担当者に伝え、アセスメントする。必要であれば臨時のカンファレンスを行う。</p>	<p>毎月のケア計画の見直しを行い、カンファレンスを定着させる。根拠に基づいたケアのありようを教育し、適宜ケア計画を変更できるようにしていく。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>情報共有の大切さを知り、引き継ぎは特変項目だけで済ませられることを目標に現在整備、教育をしている</p>	<p>記録の方法や必要性の研修を新人教育だけでなく、段階別研修計画に盛り込み、書くことを習慣づけるようにしていく。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>デイサービスを通じて介護相談に応じたり、入居相談以外にも介護相談を受け付けたりしている。終身ではないので歩行などが維持できるように、パワーリハビリをリハビリとしてではなく、運動の一環として取り入れる準備をしている。医療連携体制も看護師を常勤でキープし充実を図っている。</p>	<p>今後は、介護相談を定着させていくことと、利用者家族、地域の方を対象に、認知症や介護についての講座や勉強会を開いていきたい。入居者に対しての運動としてのパワーリハを定着させる。医療連携体制は看護師をキープし維持させていく。</p>
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>地域資源との協働</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>トライやるウィークの受け入れなどを通じ学校との連絡をとっている。学校行事に参加したり夏祭りにも準備委員会から参加し、学校関係者との顔つなぎをしている。</p>	<p>今後、防火訓練だけではなく救急講習などを自施設開催を目指し、消防署との連絡連携を図る。</p>
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>退院時などADLの低下によりリハビリを希望される場合、デイの利用を勧めたりしている。</p>	
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>地域からの情報としてすぐに利用に至らないケースの相談は受けている。入居相談だけでなく、地域に提供できるサービスとして何を提供しているのかを話し合っている。</p>	

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>往診医だけでなく、家族の意向で外部受信される際にも連携を図るために情報を書面や電話により提供している。</p>		<p>医師との連携がマメに取れるよう今後も支援方法を検討していく。</p>
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>精神科の往診をお願いしえおり、入居時必要であれば精神科医の受信をすることへの同意もしくは同意しないことを確認している。状況により、相談したり、受信したりしている。</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>看護師を常勤雇用し専属で入居者の健康状態の把握や職員指導、計画作成への助言を行っている。</p>		<p>看護師からの研修も実施し、医療的な知識も共有できるよう努めている。</p>
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院時、数回にわたり情報を交換しに看護師、管理者で病院へ行っている。受け入れ態勢や、現状把握を行っている。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化の指針を作成し、入居時に説明、同意を得ている。その中で、看取りの指針も作成している。実際に、がんの末期の方を看取りを行った。</p>		<p>本当に終末期を受けることになっても対応ができるように死生観など必要項目の研修を行う。吐血や最期に立ち会ったスタッフのメンタルヘルスの準備が必要。</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>作成した看取りの指針に基づき、終末期医療との連携の準備はある。現状、昨年入居されががんが末期の状態で見られた方が、吐血し救急搬送した。その後、治療の意思は無いとの事で、かかりつけ医の協力を得てターミナル対応し、6週間看た後家族に見守られて最期を迎えた方がいる。</p>		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>住み替えに際し、家族には早くから支援をしている。ギリギリであせって追い出されるように出ていくことのないよう、入居時から終身でないこと説明し、一緒にどういった施設への住み替えが望ましいか相談していった。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1.その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>一人ひとりのペースを大切に声かけや接遇に心がけ、尊厳を損なわないように支援している。個人情報保護法についての勉強会などを重ね、個人情報の取り扱いには慎重に対応している。</p>		<p>言葉一つで尊厳を気づけることを理解し、個人情報、虐待防止の基礎を教育し、活かせるよう管理者が支援する必要がある。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>思いや希望、できることを観察の中から抽出し、本人に決定できることを促して行くための支援を行っている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>いつまでに何をしなければならぬという考え方を一日一日の業務なかでは極力柔軟に取り組むよう心掛けている。朝も一斉に起床、朝食ではなく、本人の生活ペースにあわせ日課を全体では決めないようにしている。</p>		<p>入居者の活動時間帯においては、職員サイド中心の日課にならないようスタッフと話を続けている。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>理美容に関しては本人の意向があれば、家族などの協力を得て、希望する店に行けるよう支援している。</p>		<p>身だしなみを整えたいと思える機会の構築にも目を向けた活動をしていく。化粧品メーカーの協力で美容セラピーを実施した。化粧品をもらった後、神戸屋におやつを食べに行った。好評であった為継続できるようにしたい。</p>

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>入居者と一緒に準備、食事、片づけを能力に合わせて行っている。職員の食事に関しては、補助がないため強制ではない。現在半々の割合で同じ食事を摂っている。</p>		<p>一人ひとりのできることを奪ってしまわないように今後も取り組んでいきたい。</p>
55	<p>利用者の嗜好の支援</p> <p>利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>お酒に関しては現状提供していない。飲み物、おやつはお小遣いの範囲内で個別にも購入している。全体のおやつや飲み物も入居者とともに買いに行き、入居者の好みを重視している。</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>アセスメントをきちんと取り、快適に暮らすための援助を心がけている。安易におむつに頼らないよう、新規の使用の際は介護職のみの判断で取り入れないような仕組みを作っている。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>一人ひとりのタイミングが分かる範囲では夜間の入浴（一部介助程度に限りませんが）にも配慮している。血圧の変動などで午前浴がよい人にも対応している。</p>		<p>人員配置的な問題もあり、夜間帯や、全体的に介助が必要な方の夕方以降の入浴には対応できていない。今のところ介助浴の方で夕方以降の入浴を希望する声は特に聞いていないが、今後出てくるなら、夜間帯以外には対応できるよう、勤務時間等を工夫する必要があると感じている。</p>
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>一律に就寝時間をきめてしまわず、午睡の必要性や過去の生活状態に合わせた就寝時間での生活のための援助を行っている。必要な方には、眠剤の内服処方をしてもらい援助している。</p>		
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>一人ひとりが役割を持ち張り合いある生活を送るために、生活歴、現在のできることを大切に支援している。</p>		<p>役割を家事に限定することなく、自立支援の根本に立ち返り、できることを見つけ、社会的に必要なとされる状態を実感して過ごしていただけるように支援する。効果的な声かけやお礼の言葉かけなどを大切にする。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員ではないが、お小遣いの一部を自己管理している方もいる。全体の買い物時にも、支払いを財布の中から、入居者にお金のやり取りをお願いしている方もいる。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	閉じこもりにならないよう、買い物や散歩、中庭など外の空気に触れる機会の確保に努めている。		一日一度は外に出ることを目標としている。そのことは継続しながら、一人ひとりの楽しみを見つけ外出につなげる工夫をしていく。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別ケアとして行ってきていたものを、仲間作りを視野に入れ、同じ事への興味を持ってそうな方との合同の外出等につなげている。地域行事などは家族にも案内を出し、協力を得て外出している。		1対1では難しくても2対1であれば出かけられるので、年4回は自分の担当の行きたいところを見つけ、一緒にいける方を探し計画を立てるようにしている。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については、入居時、かけてもよい相手や、取り次いでもよい相手の同意は家族から得ている。そのことを踏まえながら、取り次ぎ、かけることへの支援を行っている。年賀状なども本人が出したい相手を聞き、だすための支援を行っている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間も長くっており、友人や、近隣の方がたづ寝てくる方もある。入居者のお部屋だけでなく、ソファー席などに案内し、過ごしやすさに対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指 定基準における禁止の対象となる具体的な 行為」を正しく理解しており、身体拘束を しないケアに取り組んでいる	現在までに身体拘束は行っていない。リスクマネージメント委員会で、身体拘束の考え方について話し合う機会を持つと共に、法人内、事業所合同研修などで身体拘束に関する研修を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>一階はカギがかかっている時間が多いが、各階の玄関は夜間帯以外（防犯のため夜間は施錠）はあけている。エレベーターも自由に使用できる状態になっている。そのため、デイのスタッフにも入居者の顔や対応を覚えてもらい離設防止に努めている。デイの協力も得て出たいときに出れる支援を心がけている。</p>	<p>今後もユニット入口にはかぎをかけないように支援していく。</p>
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	<p>お部屋で過ごされている時も、マメに訪室し様子観察に努めている。</p>	
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	<p>お部屋に所持するものの規制は基本的に行っていない。ただし、持ち物のうち危険なものに関しては職員が把握しており、危険性が高まってきたら家族を含めてどのように対応していくか、失くすことでのデメリットを考えながら対応している。</p>	
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>事故報告書などでの分析を次回につなげるために現場へのフィードバックを行っている。分析欄も、委員、計画作成担当、管理者、委員長がそれぞれ追記をすることで多角的な意見を取り入れられるよう工夫している。</p>	
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>現在は、研修を行っていない状態。予想されることに関しては個別に指導をしている。研修計画には入っているので、消防を呼んでの救急法なども予定している。</p>	
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>避難訓練などは定期的に行っている。近隣の方との付き合いを広げ、緊急時協力が得られるよう働きかけを行っている。</p>	<p>災害時、建物に危険がある場合はどこの避難場所に行くか委員会にて決定したことを、家族に熟知しておいて頂く必要がある。備蓄品の見直しなどを行っている。火事の時などは、近隣の元職員や住人数名は協力者を依頼している。</p>

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	状況に応じて危険が高まっていることに関しては個別に連絡をしている。その際、抑制することにより起こる弊害についても説明をし、本人に負担にならない支援方法の相談をしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	看護師、管理者は24時間オンコール体制をとっており、不安なまま過ごすのではなく異変に気づいたらすぐに連絡をすることはできてきている。異変に気づくための指導も随時行っている。日常を知ることの大切さを知り、観察の目を持つための意識付けをしている。		
74	服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用、副作用についての研修を実際にいる方の内服薬を中心に薬剤師に行ってもらっている。怖さを知ることによって薬に対する興味も増し、何個飲んでいる。から何の薬を飲んでいるという理解まではしている。一人ひとりの援助内容は指示項目により統一している。		
75	便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事内容、水分量、運動、内服薬の作用についての理解を深め、何が足りないかを考え計画に反映させている。		活動、運動という視点を生活の中で持てるように職員教育をしていきたい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアだけでなく、家族と相談し、定期的に歯科往診によりチェック、指導を受けられるように支援している。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好きなものを食べる。ということも大切であるが、栄養価や、繊維質についても考えなければいけないということで、食材業者を昼・夜入れている。状態によっては一口大などにしているがそれでも食べられない期間に関してはペースト食やプリン食の購入で対応している。		食事量、水分量と別々には見れるようになっているので、トータル的に見て食事がとれていないからいつもより水分量増やさないといけないなど気づけるようにしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染委員会を中心にマニュアルを作成し周知実行している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	アルコール消毒、煮沸消毒、薬剤消毒などマニュアル化し衛生的に使用できるよう管理している。食材に関しても、ユニット会議で衛生面、安全面に関して話し合いがなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施設っぽくならないよう工夫している。1F玄関の鍵はかかっていることがあるが、チャイムで開けるよう対応している。玄関も入居者と協力し一緒に掃除をしてい、気持ちよく出入りできるように努めている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活空間なので、幼稚にならないようにしている。適度な音量、換気などには気をつけている。配置もその時の利用者の状態や、グルーピングにより臨機応変に変えている。いつも気持ちよく利用できるよう清掃なども行っている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室でなくても一人になれる空間づくりや、仲間と集える環境を意識してリビングの配置を考えている。必要であれば事務所内も開放し、落ち着ける空間づくりに努めている。専門家の意見も聞きアドバイスいただいたりもしている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みの制限をかけず自宅で使用していた馴染みのものを持ち込めるようにしている。状態にあわせ、配置などには工夫をしている。居室で寝る以外にも落ち着いた時間を過ごせるよう家族と話し合いながら配置を考えている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	起床時の換気は定着させ、その他室温、空気のよどみなどに応じて居室、リビングの喚起を行っている。冷暖房も効きすぎに注意し、スタッフが心地よい温度にならないように心掛けている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行可能な方を対象としているためあえて手すりは必要最小限にしている。一人ひとりのやれることをしっかりと把握することで危険の回避や、方法の工夫につなげている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	声かけ、方法、に気を配り、分かりやすいに配慮した援助を行うよう心掛けている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダも入居者が行き来しやすいようにしている。入居者の状態によっては家庭菜園をしたりしている。外の公園まで行けなくなった方でも自然に触れる機会が持てるよう中庭の整備をしている。		

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目			
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない 民生委員の協力を得られており、地域行事などにも多く参加することでいろいろな人に入居者のことを知ってもらえる機会がある。買い物にも毎日出かけることで一般の地域の方にも声をかけてもらえることが増えている。
98	職員は、生き活きと働けている	○	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない 教育、研修を取り入れることで、窮屈と感じているスタッフがいることは事実です。記録も以前より細かく書くよう指示しているので体を動かしてのみ仕事をしなくて入ってきたスタッフは負担を感じているところはあります。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域の中でどの様に役割を果たしていくか、その中で入居者がどのように受け入れてもらえるかを考えて運営しています。地域行事などへの参加も積極的に行っています。

外出への支援もユニットを超えて行うことで各ユニットから支援するスタッフを減らすことができ実現可能になっています。

デイはデイ、各ユニットは各ユニットという壁を取り払い、いろいろな人と関わり合い生き生きと生活するための支援をするように心がけています。

いろいろな部分で自由に過ごしてもらおうということはスタッフの知識、知恵を問われることとなります。そのためのスタッフ教育をしていくようにしています。

共用型のデイの認可が下りたので、地域の中の社会資源としての役割を見つめなおし、取り組む良い機会であると思っています。